

フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	新潟県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	羽茂町立羽茂小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	18	19	22	26	28	19	4	136	

研究の概要

1. 研究主題

分かる喜び，学ぶ楽しさを実感できる指導の在り方

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数
 児童の実態に大きな差があり，基礎学力の定着が不十分な児童がいるため。（昨年度
 の取組により，学力検査の結果などからも学力の向上が見られた。しかし，未だに大き
 な個人差があり，上位の児童の伸びも今一つである。）

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年 度	<p>テーマ 分かる喜び，学ぶ楽しさを実感できる指導の在り方 研究の見通し（仮説） 個に応じた指導方法や体制，教材開発，評価の工夫・改善を図ることにより， 児童は分かる喜びや学ぶ楽しさを実感することができる。</p> <p>研究の内容・方法 ア 個に応じた指導を充実させるための指導方法・指導体制の工夫・改善 イ 発展的な学習や補充的な学習など，個に応じた指導のための教材開発 ウ 自分の変容を自覚できる評価の在り方の工夫・改善 特にアについて，少人数習熟度別指導のための指導体制を作り，指導方法を探 る。 （ア）全学年の算数学習を対象に，少人数習熟度別指導を行う。 （イ）習熟度別指導を成立させるためのコース設定，コース選択のさせ方などを 工夫し，個に応じた指導を充実させる。 （ウ）児童や保護者の理解を得ながら，より成果を上げていくためにアンケート による意識調査を行い，指導に生かしていく。</p>
--------------------	--

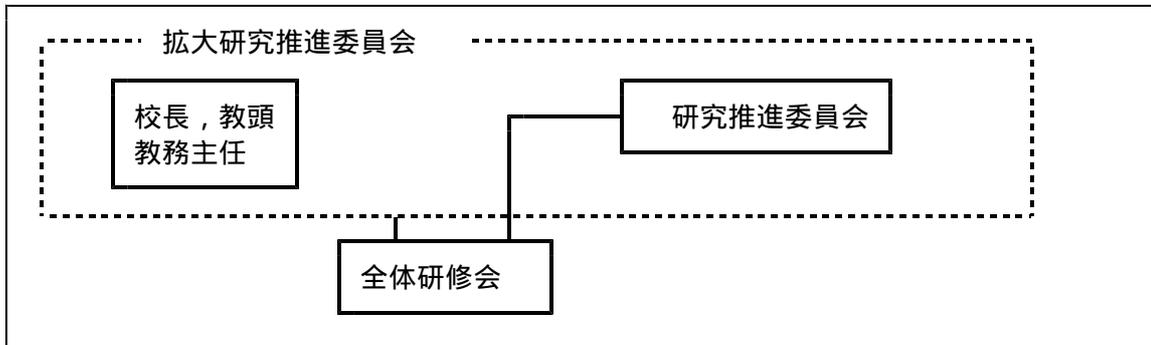
	<p>テーマ 分かる喜び，学ぶ楽しさを実感できる指導の在り方 研究の見通し 個に応じた指導方法や体制，教材開発，評価の工夫・改善を図ることにより，</p>
--	---

平成15年度	<p>児童は分かる喜びや学ぶ楽しさを実感することができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 個に応じた指導を充実させるための指導方法・指導体制の工夫・改善</p> <p>イ 発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための教材開発</p> <p>ウ 自分の変容を自覚できる評価の在り方の工夫・改善</p> <p>特にイについて、一人一人が確実に学力を身に付けていけるよう、発展的な学習の在り方を探っていく。</p> <p>(ア) 発展的な学習がよりよく行えるよう、適切なコース分けを工夫する。</p> <p>(イ) 単元について、発展的な内容を検討し、教材開発や指導方法を開発していく。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>分かる喜び、学ぶ楽しさを実感できる指導の在り方</p> <p>研究の見通し</p> <p>個に応じた指導方法や体制、教材開発、評価の工夫・改善を図ることにより、児童は分かる喜びや学ぶ楽しさを実感することができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 個に応じた指導を充実させるための指導方法・指導体制の工夫・改善</p> <p>イ 発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための教材開発</p> <p>ウ 自分の変容を自覚できる評価の在り方の工夫・改善</p> <p>特にウについて、評価の在り方、自己評価のさせ方、評価の指導への生かし方などを探っていく。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制

研究推進委員（研究主任 斎藤亮子，副任 大屋柳平，三浦美和，金泉愛）



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>昨年度に引き続き、授業の中で行ってきた「少人数習熟度別指導」と学年を解体して行ってきた「課題選択チャレンジ学習」の取組により、学力の向上と学習意欲の向上が見られた。</p> <p>・県小教研究学習指導改善調査を昨年度と比較（同一児童で比較）してみると、学級の平均正答率に上昇が見られた。</p> <p>（実施時期 平成15年2月，平成16年2月，実施学年 現4・5・6年児童）</p> <p>6年生で 76.58% 84.60%と，8.02ポイントの上昇</p> <p>5年生で 66.50% 68.70%と，2.20ポイントの上昇</p> <p>・南部郷の算数意識調査結果，意欲面・態度面でも次のような上昇が見られた。</p>

(実施時期 平成 15 年 2 月, 平成 16 年 2 月, 実施学年 全学年児童)

“算数が楽しみ”	38.8%	65.7%
“学習していることがよく分かる”	39.1%	56.9%
“よく発表する, だいたい発表する”	61.1%	73.9%

・NRT 学力検査を昨年度と比較(同一児童で比較)してみると, 5 学級中、3 学級の学力偏差値に上昇が見られた。

(実施時期 平成 15 年 1 月, 平成 16 年 1 月, 実施学年 全学年)

全校平均	54.0	56.3	と, 2.3 の上昇
6 年生で	59.7	60.6	と, 0.9 の上昇
5 年生で	50.0	59.9	と, 9.9 の上昇
4 年生で	56.6	54.6	
3 年生で	56.4	48.7	
2 年生で	52.0	56.7	と, 4.7 の上昇

なお、1 年生は 57.8 と全国平均を大きく上回る結果であった。

また、4 年生は、昨年度より下がっているものの、大領域全て、全国正答率を上回っている。3 年生は、知能との相関図を見ると、全員がオーバーアチーバーかバランスドアチーバーである。3 年生も、中領域別に見てみると、未習の領域以外は、全国正答率を上回っている。

習熟度別指導のための体制作りを工夫・改善することにより、昨年度よりゆとりをもって指導に当たることができた。

・昨年度は、少人数加配が 4 つの学年を担当していたが、今年度は、通常の指導体制に改善を加え、障害児学級担任を入れることで 3 つの学年を担当するようにした。

・習熟度別のかきっ子(基礎)コースで学習する児童の実態によって、必要に応じて指導者(級外から)を 1 名増やし、3 コースの設定を試みた。

・習熟度別指導担当の打合せを週予定に入れ、「今日の予定」として板書することで、時間を確保するとともに実施の有無の確認を行った。

課題選択チャレンジ学習については、児童のアンケートからの要望も取り入れ、より児童の実態に合った内容に改善した。

・基礎学力問題の反復学習がマンネリ化につながらないように、楽しくチャレンジできる方法を取り入れたたり、基礎学力が身に付いた児童への課題を用意したりし、意欲的に取り組めるよう工夫した。

・週 2 回の学習により、児童からは、「忘れていた内容を復習できてよい」という声がある。繰り返し復習することで、学習内容を確実に定着させることができた。

授業外での個に応じた指導の場として、週 1 回、放課後に自由参加の「のびっ子教室」を開いた。

・自分の学習状況を振り返り、分かるまで取り組んでいる姿が見られた。

・異学年で教え合う姿が見られた。

・課題選択チャレンジ学習と合わせて、全職員で全校児童を見ていくという体制ができた。

習熟度別指導を進めていくために必要な資料は、昨年度のものを基に、工夫・改善した。

・コース選択の際の資料として、レディネステストのほかに、フローチャート式で自分に合ったコースにたどり着くカードを作成するなど、コースが固定化しないよう工夫した。

・年間指導計画は、実践を通して見直し、単元によってどのような指導方法が適切かを明記して、来年度の指導に生かせるようにした。

より個に応じた指導を充実させるために、授業研究や講師を招いての研修を行い、「発展的な学習」の在り方やその教材開発を進めることができた。

・本校が考える発展的な学習とは、

(1)「基礎学力」「基礎・基本」を生活の場面で生かしていける(使っていけ

る) ようにする学習

- ・生活に密着した課題
- ・文章問題
- ・問題数を多くし、速く正確にできるようにするもの

(2) 「基礎学力」「基礎・基本」を基にして、内容を広げたり、多様な考え方ができるようにしたりする学習

- ・既習学習を生かしていくつもの方法で解決できるもの
- ・クイズ、パズル形式で楽しく取り組めるもの
- ・きまりや規則性を見付けるもの
- ・問題作成

である。応用問題も、内容によっては発展的な学習と考える。

・各学年学期3回以上の発展的な学習の実践を目指して教材を開発し、指導計画に明記した。また、実践事例の記録を残し、来年度、活用できるようにした。

・「発展的な学習」を行うための単元の流れモデル(2つ)を作った。これを基に、より有効な指導方法を追求した。

モデル1

チェックテスト	かきっ子コース	確認テスト	補充的な学習 (かきっ子コース)	かきっ子コース	単元末テスト
	あゆっ子コース		発展的な学習 (あゆっ子コース)	あゆっ子コース	

モデル2

チェックテスト	かきっ子コース	単元確認テスト	補充的な学習 (かきっ子コース)	単元末テスト
	あゆっ子コース		発展的な学習 (あゆっ子コース)	

モデル1では、発展的な学習を単元の途中に入れる。これは、指導内容が一区切りしたところで行うことにより、児童の興味・関心が持続するようにと考えるからである。

モデル2では、単元の最後に入れる。単元の内容全てを使って解決するような課題の場合である。

より個に応じた指導のための「補充的な学習」について、指導方法を工夫し、教材開発を行った。

・個々のつまづきを明らかにする補助ノート「わからん帳」を導入した。間違えた問題や分からなかった問題について、プリントを切り抜いて貼ったり書き写したりして整理した。

・課題解決の流れを確認しながら問題を解いていける学習教材を、コンピュータを活用して開発した。課題解決の手がかりとしたり、基礎・基本の確認に使ったりした。

学習計画カードの自己評価欄の工夫・改善により、次の学習に生かせる自己評価を行える児童が増えてきた。

・自己評価欄の工夫として、「大変よく分かった、だいたい分かった、分からなかった」の3段階評価、「その時間の課題にかかわる問題を1問解いて理解したかどうか確かめる評価」、「学習の振り返りを文章で書く評価」を設けて、学年発達に合わせて使い分けた。

- ・自己評価を基に、適切なコース選択をしたり、必要な学習を自主学習時に行ったりしている様子が見られるようになった。
- ・指導者は、児童の自己評価を基に、評価の低かったものについて、個別に指導を行ったり、次時の授業の中で取り上げ共通の復習（確認）課題としたりした。

2. 今後の課題

全学年指導者2名体制の習熟度別指導の研究を進めてきたが、限られた職員数でも取り組んでいける指導体制を工夫していく必要がある。一斉指導や、必要に応じて級外職員が入るTT指導などである。

発展的な学習について、その在り方をさらに明らかにする。そのために、日々の授業や授業研究を通して、指導方法、教材の開発を進めていく。

個に応じた指導を行うために、C段階の児童を出さないための指導方法やみとり方法を探っていく。

学習計画カードやノートの使い方を工夫して自己評価力を付けさせ、それがコース選択や家庭学習につながるようにする。また、教師の指導にも生かせるようにする。

学力等把握のための学校としての取組

定期的な学力調査の実施（各年1回）

- ・教研式標準学力検査NRT
（国語，算数の2教科，平成16年1月，全学年）
- ・新潟県小学校教育研究会学習指導改善調査
（国語，算数の2教科，平成16年2月，4，5，6年）

学習意欲調査

- ・算数学習意識調査（年1回 全学年）
- ・課題別選択チャレンジ学習アンケート調査（年2回 全学年）
- ・習熟度別指導アンケート調査（年2回 全学年）

課題選択チャレンジ学習での学年の基礎学力プリント実施
（平成16年1月 全学年）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

中間発表を以下のように実施した。

- ・日時 平成15年10月9日（木）午後1時10分～4時35分
- ・場所 羽茂町立羽茂小学校
- ・テーマ 「分かる喜び，学ぶ楽しさを実感できる指導の在り方」
- ・対象 佐渡島内小・中学校，県内フロンティア事業指定校，羽茂教育委員会
羽茂小学校サポート委員，羽茂小学校保護者
- ・内容 公開授業
算数5年の習熟度別授業
講演会
講師 上越教育大学 助教授 布川和彦様
演題 「発展的な学習と理解の深まり」

ホームページへの掲載予定（<http://www.e-sadonet.tv/~hamoti-e/>）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無